

2011年の予測を 自己評価しました

B

自動ストレージ・ティアリング (AST)

今、ASTを扱ってないベンダーを探せ、と言われたらさぞかし困ることだろう。その意味では我々に先見の明があったといえる。でも、ユーザーは、って？ まあ、それは別な話だ。ユーザーへの導入は、我々が予想したのよりも、やや遅れ気味だ。

C

プライマリストレージにおけるデータ削減

IBMがStorwizeを買い、DellがOcarinaを買い、Permabitは自社の技術をOEM。これって完璧、プライマリストレージのデータ削減の嵐到来だったのでは？ 違ったようだ。おそらく、嵐の前の静けさなのだろうが、この技術の旋風が吹きまくるのには、相当の時間が掛かりそうだ。

B+

VMware ストレージ用API

VMwareが、ストレージ製品を管理するのはストレージ・ベンダーの方が上手、と認めた事は、今年最大のニュースだった。構成からバックアップまで、仮想マシン (VM) に関するストレージの作業が、今年とても楽になった。

B-

スケールアウトNAS

この件については、我々はおそらく1年早かったようだ。スケールアウトNASについては、多くの話題があったものの、実際の導入はさほど進まなかった。

A

マルチプロトコル・ストレージ

今日、ブロックかファイルのどちらか一つだけをサポートしているストレージ製品はまずないだろう。一つしか芸のない製品は舞台から消えようとしている。NetAppは、我々が長い時間を掛けて出したこの予測に疑いを持っているかも知れないが、我々は予測を的中させた自分たちを褒めであげたいと思う。

B+

クラウド・ストレージ・サービス

我々は「クラウド」という言葉を1日に千回くらい聞いているような気がする。しかし今年、クラウドは実際に、エンタープライズ・データ・ストレージの一要素となった。我々のアンケートによると、読者の方々の四分の一が、何らかのクラウド・ストレージ・サービスを使っている。ヨギ・ベラ*訳注1が言ったように「ウソだと思ふんなら、調べて貰ったっていいんだぜ」